

太田東西かわら版

おんころころ せんだりまとうぎ そわか

2022.10

「身口意」の実践



写真の女性は3人のお子さんを持つ、薬局お客様の緒方二美さん。
産後うつをきっかけに太田東西薬局の漢方に出会い、そのお子さんも
今年4月から小学1年生になりました。

母子ともに健康になった今、何も悩みはないはず・・・だったのですが
緒方さんにはどうしても気になること、納得できないことがあったのです。

それが、学校での「マスク着用」の習慣。

新型コロナ騒動が始まって、およそ2年半。

いまだにコロナ感染死を恐れて、厳重な消毒とマスクに励んでいる日本人もきっと多いと予想されますが、西洋医学の本場アメリカでは、今現在マスクを着用していません。(テレビのBSで放送される大リーグやゴルフ番組でご確認ください)

同じく、2年前に最も感染死者数を出したヨーロッパ。ロックダウンまで発令されましたが、同じく何事もなかったように、すでに“ノーマスク”。

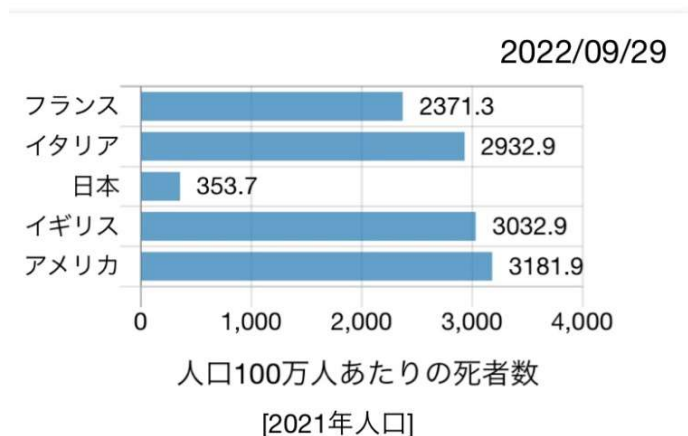
右の写真は、イギリスの知人から送っていただきました。エリザベス女王の国葬の時です。



よ~~~~~く 目を凝らして見てみてください。
確かに、誰もマスクしてません。
しかも、“密”じゃないですかっ！(笑)

では、アメリカもイギリスも、新型コロナ感染はとっくに終息したのか？というところ・・・

9月29日付のデータ (world-meter) を調べると、とんでもない！



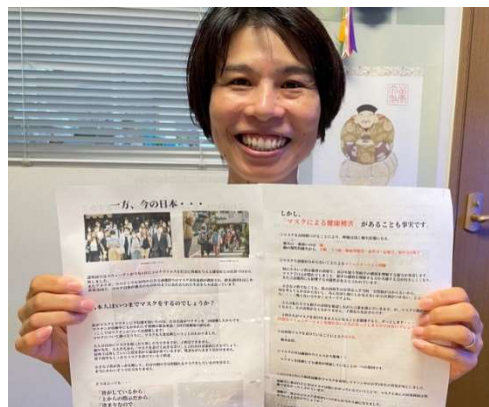
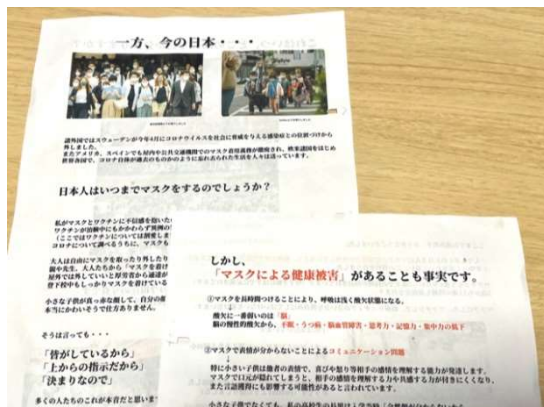
緒方さんは世界の状況を自分で調べた結果、疑問に思ったのです。

「どうして感染者が増えている諸外国がノーマスクで、死者数も減少傾向で累計感染死者数も世界でダントツに“低い”日本が、マスクに厳しいのか？」

その疑問と葛藤から、緒方さんは自分で資料を作成しました。

そしてお子さんの授業参観の日、そこに集った保護者の方々に、意を決して配布されたのでした。(担任の先生の承諾を事前に得て)

それがこの資料です。



9月のある日、その資料を持って来局されました。そして私に差し出すなり「太田先生、これを添削してください！」とおっしゃいました。

私はその時、緒方さんの本気さを感じました。「我が子を守りたい！」。母としての本気さを。

中には、こう反論する日本人もいることでしょう。「マスクを真面目にしている日本だからこそ、感染死者数が少ないのだ」と。そんな人たちに、申し上げたいこと。「マスク着用の健康被害を、もっとお勉強してから言ってください」。

2年半に及ぶマスクの習慣。マスクなしでの感染リスクと、マスク常時着用による健康被害と、どちらが多発しているか？。皆さん正直なところ、

コロナよりも、“他人の目“が怖くて、マスクしていませんか？

嫌だけど我慢して、決まりだから仕方なく。それ、とても健康に悪い習慣です。

「コロナで亡くなった」。あなたの知り合いで、何人いますか？私の知り合い～薬局のお客様で、亡くなった人はいません。しかし、マスクとワクチンで不調を訴えている人は、たくさん知っています。

マスク着用を否定しているわけではありません。本来マスクは、感染して鼻水・咳をしている患者が、周りに飛沫感染させないためにする医療用具です。それなのになぜ、成長盛りの子どもたちに、酸素供給が最も大切な年頃である子どもたちに、クラスター（感染爆発）を恐れて、実質義務化しているのか？

大人の都合。業界の利権。立場の保身。責任逃れ。他人事。

そう思うのは、私の「深読みし過ぎ」でしょうか？

仏教で、《身口意（しんくい）》という用語があります。
それを目指して生きて行けば、必ず幸せになれる。あの世でも必ず成仏できる
という教えです。

身：やっていること（行い）

口：言っていること（言葉）

意：思っていること（思考）

この3つが合致している生き方を目指して、勇猛果敢に生きていく。

しかし現実には、思っている、なかなか行動できない。
言っていることと、やっていることが全然違う。思っている、言えない……。

人間、そうした葛藤こそが“ストレス”になり、それが長期化した時に
健康を失います。肉体面ではガン、精神面ではうつ病が代表的。

緒方さんは産後の自分が「身口意できていなかったこと」が産後うつの原因
だと、太田東西薬局で学びました。だから今回、決意されたのです。

「もう二度と同じ過ちはしたくない！我が子のためにも」と。

自分に正直であろうとする緒方さんを応援すべく、緒方さんのお子さんが通う
学校に、私は同伴同席しました。

「〇〇反対！」といった、怒りの感情をぶつけるのではなく、理性を持って
自分の考えを発言する。そして相手の考えを冷静に耳にしてみる。

相手の立場を考えず、我が意を押し通す行為は、子どもの“わがまま”と同じ。
さりとて「どうせ無理」だとあきらめるのではなく、**自分が思っていることを
行動に移してみる。移して、自分の思いを伝えてみる。あれこれ考えずに。**

それがこそが**《身口意の実践》**です。

校長先生も理性と知性のある方で、終始
和やかに話し合いができました。

結果、何も変わらなくてもいいのです。

緒方さんにとって**《身口意》**できたこと。

それが何よりの人生経験であり、それは
また、我が子の心に「誇らしい親の姿」と
して、しっかり刻まれますから。

口先だけで自分を棚に上げている親を、子どもは最も嫌うものです。

